

教育実習生と語る会（2023年6月21日）

実習生の先生の高校生の時代はどうだったか、教職を目指した理由は何か、大学生活について、など詳細なお話を、それぞれの先生方からお聞きしました。印象的なお話の断片のみですが、いくつかをご紹介します。

- ・高校生のころは、小テスト勉強は、隙間時間を活用して行っていた。
- ・高校生のころは、ギリギリでついていっていた。3年生の夏休みくらいから、やっと1日12時間とか必死で勉強した。
- ・高校で部活動の楽しさに目覚めた。
- ・大学の仲間で個展を開いている。
- ・大学のコース選択は、入試のときに決まるもの、大学1年生の成績で決まり、2年でコース選択するもの、などいろいろある。
- ・大学によっては、キャンパスのことをよく知っていないといけない。
- ・大学では実験などで、徹夜だったり、大学に泊まり込み (!!) だったりする。
- ・理数科の課題研究の数倍、数十倍くらい厳しく卒業研究などで質問される。
- ・大学の履修登録は、自分で決められるのでいい面と、煩雑なので悪い面とある。
- ・一人暮らしは、最初はホームシックになるが、友達とお泊まりとか、一緒に課題をやるとかの楽しみがある。
- ・理系の大学では高校数学は前提としてそれ以上の内容を学習していく。工学部なら数Ⅲはあたりまえ。
- ・高校で数Ⅲをやっていないときは、補習がある。

加茂高生の先輩として、一足先に大学で学んでいる先輩としてのお話は興味深く、時間の経つのがあっという間でした。実習生の先生方の今後のご活躍をお祈りするとともに、よい機会をいただけたことを感謝しております。

